

【 茨城県教育研修センターメールマガジン 】「きたやま通信」

Vol.26 [2025.1.17]

【 茨城県教育研修センターメールマガジン 】「きたやま通信」 Vol.26 [2025.1.17]

※本メルマガ「きたやま通信」の配信を個人で希望される方は、こちらの 二次元 コード(もしくは URL) から、メールを受信できるアドレスの登録をお願いします。

また、本メルマガを多くのお知り合いの方々にご紹介いただければ幸いです。

[URL] <https://forms.gle/UGNXEb9q5ysYwGBG8>



※ いつも当メールマガジンをご愛読いただき、誠にありがとうございます。

ぜひ、本メールマガジンに対しまして皆様からのご意見ご要望をお寄せください。「こんな情報がほしい!」「もっと深く掘り下げてほしい!」

「もっとこうだったらいいのに」など、皆様からの声を心よりお待ちしております!

次の二次元コード・URL よりお願いいたします

[URL] <https://forms.gle/6Paz2r3FJimxz5kb8>



■1 研修室点描

◇1 教育相談(初級)研修講座(A・B 班)

◇2 自立活動指導力向上研修講座 第2日

◇3 中堅教諭等〔後期〕資質向上研修講座(小学校、中学校、高等学校)修了式

■2 実践家の魅力に迫る! ~アクティブラーナーにインタビュー

■3 センター事業のご案内

▼1 公開講義のお知らせ(教科教育課)

▼2 長期研修修了式について(教職教育課)

▼3 Online Ed Café

■4 参考資料のご紹介

▼1 ICT を活用した先進的な取組のご紹介(情報教育課)

▼2 生成 AI の可能性を最大限に活用するための道しるべ(情報教育課)

■5 推挽録(編集に寄せて) 情報教育課 教育情報ネットワーク管理室 主査 藤岡 賢治

■1 研修室点描

◇1 教育相談(初級)研修講座(A・B 班)

【期日】A 班 令和6年 11 月 22 日(金)、B 班 令和6年 11 月 29 日(金)

【人数】A 班 54 人、B 班 52 人

【内容】

<演習>「個別面接の基礎2～ロールプレイを通しての実践から～」センター職員

<研究協議>「個別面接のロールプレイを基にした検討」センター職員

県立勝田工業高等学校 教諭 荷見 一恵、県立三和高等学校 教諭 比氣 勝俊

常陸大宮市立大賀小学校 教諭 高畠 みどり、坂東市立沓掛小学校 教諭 櫻井 幸子

水戸市立第三中学校 養護教諭 根本 光子、常陸大宮市立山方中学校 教諭 小室 厚子

かすみがうら市立下稻吉東小学校 教諭 大竹 理子(A 班)、土浦市立神立小学校 教諭 岡野 裕美(B 班)

【参加者の声】

〇話を聴くという姿勢を大切にしなければ教育相談は上手いいかないことを、ロールプレイを通して感じた。一緒に考えていきたい、悩みを共有したいという視点から、教育相談は始まっていくと感じた。どんな状況におかれても、相手に寄り添える教師でいたい。

〇今までは、結論を急いで話を聞いていました。本日の研修の中で、自分の聴きかたをレコーダーで録音し確認したことで、自分の癖を認識し改善点に気づくことができました。また、他の方の聴き方を観察したことで、とても参考になりました。教育相談においてポイントとなる場面と聴き方を助言いただき、とても参考になりました。今日学んだことを、今後の実践に生かしていきたいと思います。ありがとうございました。

〇いろいろな事例の実践を通して、発達段階に応じた話を聴く技法や信頼関係を築く態度について、とても参考になりました。また、録音を再生しながらの先生方との検討会では、自分の話の聴き方について振り返ることができました。今後の教育相談においては、「来てくれてありがとう」という気持ちを大切に、受容・繰り返し・質問を意識しながら取り組んでいきたいです。

【教育相談課より】

本日の研修を通して、教育相談の様子を録音し改めて聞き直すことで、自分の「聴き方」を客観的に捉えることができた方や他の参加者の教育相談を観察することで、「受容と共感」の大切さを実感した方も多く見られました。ぜひ、研修を通して学んだことを、日々の学校生活で生かしていただけることを期待しています。

◇2 自立活動指導力向上研修講座 第2日

【期日】令和6年 12 月 12 日(木)

【人数】100 名

【内容】

<研究協議>「学びを支える自立活動の授業実践～プロセスシートを踏まえて～」センター指導主事、センター主査

<研究協議>「学びを支える自立活動の授業づくり～授業改善を目指して～」センター指導主事、センター主査

【参加者の声】

〇協議の時間の中で様々なアイデアをいただき、そこから自立活動の授業の発想をふくらませることができたとても有意義な研修時間となりました。複数の目でアイデアを出し合うことの大切さを改めて感じました。今後も児童生徒にとって充実した自立活動の授業を計画していきたいと思います。

○自立活動の目的や意義を深く理解し、他の先生方の工夫や実践方法を学ぶことができたことで、授業づくりに自信が持てるようになりました。「自己理解を促し、生徒の良さや強みを生かす」自立活動を展開していけるよう努めていきます。学びが多く、とても充実した2日間の研修でした。

【特別支援教育課より】

2日間の研修を通して、自立活動に関する目的や意義への理解を深め、多様な視点からのアイデアを共有することで、授業づくりの自信や発想を大きく広げる貴重な機会となりました。他の先生方の実践例や工夫を知ること、自分自身を深く理解し、自分の得意なことやポテンシャルを最大限に発揮できる授業の展開に向けた具体的なヒントが得られたことと思います。今後も、この学びを活かし、児童生徒一人一人に寄り添い充実した自立活動の授業を実現していくことを期待しています。

◇3 中堅教諭等〔後期〕資質向上研修講座（小学校、中学校、高等学校）修了式

【期日】 小学校：12月12日（木）、中学校：12月17日（火）、高等学校12月4日（水）

【人数】 小169名、中143名、高73名

【内容】

〈演習〉「学校全体における教科学習の現状と課題」

〈研究協議・演習〉「授業改善を目指した学校組織マネジメント～プロジェクトプロポーザルを通して～」

〈修了式〉

【受講者の声】

小○組織マネジメントを中心に学ぶことができ、今後の自分に役立つものだったと感じています。特に、ミドルリーダーとしてのマネジメント力、チーム支援など、自分が中心となって行っていくことの大切さを改めて感じ、一層日々の業務で、自分にできることを考えて取り組むようになりました。今後も子どもたちのために精進していきます。

中○今まで培ってきた様々な経験をもとに、ミドルリーダーとして学年や学校のマネジメントを行うための基礎を身に付けられたと感じました。改めて自分の教科に対して授業改善を考えたり、領域への探究心を続けたりすることで、学校組織のブラッシュアップのための企画を進めていかなければならないと感じました。若手教員もベテラン教員も巻き込んで、よりよい学校づくりに尽力していきたいです。

高○研修を通じて、新しい教育方法や指導技術を学び、自分の授業に取り入れようとする意識が高まった。生徒一人一人の特性を理解し、そのニーズに応じた対応が重要であると改めて考えた。

○これまでの学びや経験を児童生徒、そして先生方へ中堅教諭の立場として還元し、学校運営全体が円滑に進んでいくよう行動していく立場であることを再確認した。今後、学校で校務分掌の長、学年主任などミドルリーダーとして学校を運営していく立場になることが増えていくため、今後より責任をもって校務にあたっていきたい。

【教職教育課より】

教職経験12年目にあたる中堅後期研修では、広い視野をもって組織マネジメントに参画するための知識・技能を習得し、学校の課題を解決する能力を図ることを目的に、6日間の研修を行いました。受講された先生方は、コーチングの理論やICTの活用について学ぶことを通し、若手教員への支援に必要なスキルをさらに高めていました。また、学んだことを自分事化して積極的に学校運営に関わり、ミドルアップダウンのマネジメント手法を活かしたさまざまな実践につなげていました。これからも、中堅教諭として広い視野をもって組織マネジメントに参画し、各学校で活躍されることを願っています。

■2 実践家の魅力に迫る！～アクティブラーナーにインタビュー

◇県立盲学校 八柳 千穂教諭

八柳先生は、現在、視覚障害のある児童生徒が通う県内唯一の盲学校に勤務されており、学習指導部研究係として、特別支援教育に携わる職員としての専門性を、同僚と共に高める実践を行っておられます。前任校は肢体不自由教育

の特別支援学校に勤務されており、特別支援学校における準ずる教育課程の授業担当者のための研修講座を聴講するなど、日々必要な情報を取り入れながら子どもたちへの指導の在り方について改善を図られています。

【実践者の振り返り】

○児童生徒の障害は重度・重複化、多様化の傾向にあり、実態を適切に捉えるためには多面的・多角的な視点が必要です。

そこで私が今、力を注いでいるのは、「複数教師の協働をもとにした実態把握」です。年齢も経験も異なる教師が集まってお互いの持っている情報を出し合うことで、新たな視点で生徒をみる機会となったり、実態や指導のポイントを共有したりする機会となったりします。

○「問題文を最後まで読まず、読み始めてすぐに答えを探そうとする」「提出物は締切の早い順ではなく出された順に手をつける」といった様子が見られる生徒さんについて関係者で情報交換を実施すると、「机上に教科書やノートが散乱している」「プリント類は関係ない教科が混ざっている」といった『整理整頓の難しさ』も見えました。これらの情報から本生徒の課題は「整理したり順序立てたりしながら考えることや行動することの困難さ」と捉えることができ、また「聴覚や視覚から入る刺激への敏感さ」や「空間認知能力の乏しさ」に関する情報も挙げられ、困難さの背景要因にはこれらも大きく関係していると推察されました。

○教科の本質的な学びに集中できるよう、刺激が入りにくい場所に席を変えたり、机上の物の配置やプリント類のファイリング方法、タブレットのカレンダー機能を使用して提出物を管理する方法等を取り入れることにより、生徒は学習のしやすさを実感できたようで、次第に教師の声かけがなくても、自分でこれらの方法を実施する様子が見られるようになりました。

【今後に向けての抱負】

○実際に一緒に取り組んだ教師からは「その子の新たな一面を知ることができた」「情報が整理されて、指導の方向性が見えてきた」といった感想が得られました。指導のポイントが共有できると、おのずと評価の視点も一致してくるようで、児童生徒の変容がより明確になったと感じます。

今後は、一人一人の児童生徒をチームで支援する特別支援教育の強みを、他の先生方と情報共有を図りながら、より充実させていきたいと考えています。

※インタビューから、校内の教師と協働して生徒の実態把握に努め、生徒一人一人の理解と支援を大切にされている様子が伝わってきました。これからも、研修での学びを生かして一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育の実現に向けて取り組んでいただきたいと思います。

■3 センター事業のご案内

▼1 公開講義のお知らせ(教科教育課)

○公開講義:No.23「豊かな情操を培う造形遊び」(オンライン)

【日時】令和7年2月21日(金)13:30~15:30

【講師】鳴門教育大学 山田 芳明 教授

【対象】小中高特

【内容】小学校図画工作科における「造形遊び」の意義や魅力、授業づくりの工夫などについて学ぶ講座です。

○詳細、お申込みはこちらをご覧ください。(申込期限:2月14日)

【URL】<https://www.center.ibk.ed.jp/wysiwyg/file/download/1/3734>

▼2 長期研修修了式について(教職教育課)

12月24日(火)に、長期研修3か月生19名の修了式を行いました。式では、内桶所長から、学校現場に戻る研修生に向けて「教科・領域のプロとして専門性を発揮してほしい。」「リーダーになる!研修で培ったスキルを学校で活かしてほしい。」などの話がありました。

代表挨拶では、つくば市立秀峰筑波義務教育学校 木村里史教諭から、「ここからが本当の『自分自身の研修』のスタートだと思っています。常に学び続け、ここで得た経験とつながりを今後の教育活動に生かし、児童生徒のために取り組んでいきます。」との言葉がありました。

3 か月の長期研修で得た学びや成果を児童生徒、学校、地域のために還元されることを願っています。

研究の成果物については、教育情報ネットワーク（ログインが必要）の「教材データベース」に収納されています。ぜひご覧ください。



▼3 Online Ed Café

「第 35 回 Online Ed Café 木村泰子先生と語る『きょういく』」の動画を、当センターWeb ページの Online Ed Café で公開しております。

今回は、工藤勇一先生、岡田武史氏をメンバーに迎え、「これからの社会をつくる子どもが育つためにもっとワクワクする学校を考えよう」という話題から、今の時代に大切な教育とは何であるのか、問い返しました。ぜひご覧ください。

*第 35 回は、2026 年2月末日までの期間限定公開となります。

〔URL〕<https://www.youtube.com/watch?v=ISjZZrTG6xg>

■4 参考資料のご紹介

▼1 ICT を活用した先進的な取組のご紹介(情報教育課)

文部科学省は令和5年度リーディングDXスクールの取組をまとめた実践事例動画を随時 YouTube にて公開しています。

次の URL より、そのすべての動画(36 本)を閲覧することができますので、日頃の取り組みの参考にしてみたいはいかがでしょうか。

〔URL〕https://www.youtube.com/playlist?list=PLGpGsGZ3lmbAsHMGckD-wgFETB2sN_CPF

▼2 生成 AI の可能性を最大限に活用するための道しるべ(情報教育課)

文部科学省は「初等中等教育段階における生成 AI の利用に関する暫定的なガイドライン」を更新しました。

当該指針は生成 AI の概要や基本的な考え方を示した上で、学校現場において押さえておくべきポイントとして、利活用する場面に応じた留意点等について、現時点の知見を基に可能な限り具体的に示しています。是非ご確認ください。

〔URL〕https://www.mext.go.jp/a_menu/other/mext_02412.html

■5 推挽録(編集に寄せて) 情報教育課 教育情報ネットワーク管理室 主査 藤岡 賢治

▽心温まる配慮～「おもてなし」

この話は、私が教師になってまだ若いころの話です。体育館で行う全校朝会での出来事でした。

全校朝会は、最初に校長が全校児童に向けて話をしたり、表彰式を行ったりします。

終わった後は、学年ごとに分かれ、担任からの指示や伝達が行われ、その後、学年ごと解散となり、子どもたちは体育館の出入口に向い、各学級のある教室へと移動することは、どこも同じです。

その日の全校朝会では、3年生が1番早く終了し、体育館の出入口にある下駄箱に向かって足早に移動を始めました。そんな時、ある3年生の男の子の行った行動は、私自身を不可解にさせるものでした。

その行動とは、体育館の出入口に1番遠い場所で解散すると、その場で自分の履いていたシューズを脱ぎ、手に持って移動を始めたのです。

これが夏の時期であれば、体育館の出入口が混雑するのを避け、少しでも早く下駄箱に自分のシューズを置きたいための行動かなあと想像できなくもありません。

しかし、時期は十二月のはじめ、体育館フロアーの冷たさも足に堪えようかという寒い時期でした。

そこで彼に尋ねてみました。

「なぜ、そんなに早くシューズを脱いで移動したの？」

すると彼の返事は、私の予想した考えを、根底から覆すものでした。

「まだ朝会が終わっていない学年があったので、音をたてないようにと思い、脱ぎました。」

シューズのかかとを踏んで歩く子を、度々注意することはありましたが、

逆に、この出来事は、そんな浅はかな自分自身の考え方を反省するとともに、子供たちの持っている素直で純粋な気持ちに触れ、心が温かくなりました。

『表(おもて)、裏(うら)のない心』で、相手を気遣うことこそが、「おもてなし」というのかなと実感した出来事となりました。